

## 生田緑地マネジメント会議参画団体要望とりまとめ

種別	要望
生田緑地ビジョン 基本方針	<p>先日の報告では、基本理念・基本方針は変えない、との事でしたが、下記については検討が必要と思います。</p> <p>* <b>基本方針</b>（または最初の「生田緑地とは」の部分でも良い）          ここには<b>生田緑地の歴史を継承することを入れるべき</b>と考えます。          東京緑地計画以来の「緑地」としての歴史か、もっと以前の古代史からの歴史かは要検討です。          少なくとも<b>生田緑地の誕生は東京緑地計画が発端となった事実くらいは入れて欲しい</b>です。</p>
生田緑地ビジョン 社会情勢	<b>コロナ後の世界的変化やSDG s等の導入を見据えた対応が必要</b> だと思います。
生田緑地ビジョン 基本的な考え方	<p><b>二次的な自然である里山においては「緑地の存在効用（保全）と利用効用（利用）の調整により、両者が好循環するしくみ」ではなく、利用と保全が一体のものであることから、貴重な自然を守る意思があるなら好循環という考え方を捨てて、利用と保全は一体であることを認識する必要がある。</b></p> <p>従来は税金を投入することで運営されてきた生田緑地を<b>里山の自然資源を適切な速度で利用販売することを通じて、財政的な独自性を高め、高度な人材の雇用を可能にして、さらに一般の都市公園や保全緑地の間に差異を形成し、市民、自然、利用の面からわが国を代表する公園緑地となるように政策を展開するとともに、普及活動を行う。</b></p>
ナラ枯れ	ナラ枯れ等の大木の倒木については、伐採木の処理などが問題となっています。伐採後の処理の方法などの検討も必要と思われます。
初山地区	<b>初山地区は里山（里都山）の風景も取り入れた場所であると思います。農作物を作り、成果物を料理したりとデイキャンプが可能な場所として利用を考えていただきたい。また、自然観察の場所として、雑草地を設けて欲しい。</b> （現在、看板等がない為に放置地と間違われる）バッタなどの生息地として雑草地は必要と考えます。
園路	<p>生田緑地は<b>昭和16年の都市計画決定による都市計画緑地を前提として、少しずつ用地買収を行い、都市公園として整備してきたため、現時点で見ると必要ないのではないと思われる園路もあります。</b>しかも、その園路としての必要性の程度に関わらず、維持管理のコストはかかっていますし、<b>自然の保全のためには、むしろ無い方が良いのではないと思われる園路もあります。</b></p> <p>一旦整備された園路は廃止できないとするのではなく、改めて、<b>生田緑地の自然を保全するために、また利用の安全、快適性のために、園路の一部の見直しも可能にする生田緑地ビジョンにしてほしい</b>と思います。</p>
維持管理	また手入れされない緑地は子供たちの体験活動にも支障が出る、ダニや毒虫の温床になっていて子供を連れて行けない。 <b>子供や老人が安心して利用できる手入れが必要。</b>
ばら苑	<p>ばら苑については、生田緑地の中でも集客のポテンシャルが高いと考えられます。</p> <p>今までの懸念事項であった工事・緊急車が直接入れる入り口構想も実現しつつありますが、本格的な整備が待たれます。</p> <p><b>築60年超・非耐震構造のローズガーデンハウスの改修又は建て替えの検討や、トイレ・ボランティアの休憩スペース等施設の本格的な整備、通年開放やそもそもの「薔薇園」の在り方自体の整備をどうするか、検討して方針を明確にして欲しい</b>です。</p> <p><b>生田緑地ばら苑ボランティア会は、今後もボランティア活動の継続を強く望んでいます。</b></p> <p>地域住民の声により残り、<b>ボランティアの力が運営に寄与していることが、生田緑地ばら苑の大きな魅力</b>だとも確信しています。</p>
管理・運営	<p>ほかの公園などを見て思うのですが、<b>希少種の保全や防災上の観点から、例えばホタルの里などの夜間閉鎖管理の必要性の有無の検討の必要はないでしょうか。</b></p> <p>一部たち入れない場所はサンクチュアリとして設定するかどうか、の検討もして頂きたいと思います。（→都市公園法との兼ね合い＝全域開放が原則？）</p>

種別	要望
協働のプラットフォーム	<p>各団体の実績は、当該団体の実績であって、生田緑地マネジメント会議の実績ではないことを確認していただきたいと思います。</p> <p><b>生田緑地マネジメント会議は、行政も含めた全団体間の協働が適切、かつ活発に行われるようにすることを目的に、協働のプラットフォームとして活動してほしい</b>と思います。</p> <p><b>生田緑地の公益に資する活動を行う団体を、協働という形で応援して、より活発に展開されるようにすること</b>で、<b>行政負担を下げながら、サービス水準はむしろ向上させるという新たな手法を構築するべき</b>と思います。</p> <p>このことを、<b>生田緑地で活動する全団体が、正しく、自分のこととして認識できるような生田緑地ビジョンにしていきたい</b>と思います。</p>
	<p><b>日常的に、適切に情報共有ができるようなシステムを構築</b>できるように、情報共有の重要性を謳ってほしいと思います。</p>
	<p>協働は相互信頼なくしては成立しませんが、相互信頼は相互理解なくしてはありえません。</p>
	<p><b>相互理解のためには、情報共有が必要</b>だと思います。</p>
	<p>かわさき自然調査団は川崎市内の自然の現況とその変化を調べ、記録し、将来に残す活動を青少年科学館と協働して行う6班と、生田緑地の自然を保全し、未来に繋げる活動を行う水田ビオトープ班の7班で活動を行っています。</p>
	<p>団員には生田緑地の自然に関しては誰よりも知っているという自負があります。</p>
	<p>私は科学館と協働し、調査を行う立場で書かせていただきます。</p>
	<p>現況のマネジメント会議がこれからも続くのであれば、参加をする意味を見出しかねています。</p>
	<p><b>今のマネジメント会議に時間を割いて参加をする必要も魅力もありません。</b></p>
	<p>協働のパートナーに活動内容、その成果を評価して頂いているから、余分なことに時間を取られたくはないと考えています。</p>
	<p>また、マネジメント会議でも私たちの知識、能力を必要とはされていないようです。</p>
	<p><b>生田緑地マネジメント会議自体の広報が必要</b>です。</p>
	<p>* マネジメント会議のパンフレットが必要です。</p>
	<p>* もっと <b>マネジメント会議の会員交流の場が欲しい</b>、との意見があります。</p>
	<p>人と自然との共生を基に、<b>生田緑地の自然保護をマネジメント会議が中心となり製作</b>することが望ましいと考えます。<b>ワークショップを開催し、より広く大勢の方に問題提起をして課題解決を図りたい</b>と思います。<b>区分け（手つかずの部分と人的利用範囲を）を明確化</b>して利用する。</p>
<p>生田緑地ビジョンの改訂は、生田緑地の可能性を模索し続ける上で、必要なものだと思います。</p>	
<p>しかし、実のところ「生田緑地ばら苑ボランティア会」の会員の中には、「生田緑地ビジョンやマネジメント会議が何なのか?」「事業調整課っていったい何をしているのか?」をご存知ない方も多いです。</p>	
<p>そういう状態でビジョン改定への意見を求められても、うまく回答できないのが現状です。</p>	
<p>たとえば、『アンケート要望依頼書』3頁目の参考資料に、「ばら苑管理運営整備方針の策定に向けた検討」という記述があります。</p>	
<p>ボランティア側からすると、これがどういう形式で、何をどう検討するものなのか、なかなかイメージが湧きません。具体的な像が見えないことで戸惑いが強まり、それこそ「ボランティア活動を今後も継続できるの? 解散もありうるの?」と不安を覚える方もいると思います。</p>	
<p><b>課題を検討し、ベターな方向へシステムやルールを変えていくことには大賛成</b>です。</p>	
<p><b>しかしその場合は、常に情報をオープンにして、必要に応じて説明や話し合いの場を設けて頂くことをお願い</b>したいです。</p>	
<p>特別扱いは組織の弱体化につながるので、学識経験者を特別扱いして、単独でも活動団体扱いすることをやめてほしい。</p>	
<p>それと裏腹の関係になるが、<b>現在の団体のみが参加できる仕組みを改め、個人でも参加できるような、ボランティアリーグのようなグループを設けたい</b></p>	
<p>生田緑地では、未だに、活動者不明の活動が放置されている場所があります。</p>	
<p><b>生田緑地の生物多様性保全のためには、少なくとも、誰が、どのような目的で、どのように活動しているのかについて、自然会議が把握できる仕組みにさせていただく</b>ことが、自然を保全するためには不可欠だと思います。</p>	

種別	要望
協働のプラットフォーム	<p>協働のプラットフォームの会員間の情報共有ができるような情報交換システムを構築してほしいと思います。</p> <p>単なる情報交換のために会議を開催する必要は無いと思います。</p> <p><b>会議は重要な課題について、議論を尽くすために行うべき</b>と思います。</p> <p>年間1回の活動報告では、現場の活動には役に立ちません。</p>
	<p>一番不思議に思ったことは、何のためにマネジメント会議はあるのでしょうか。</p> <p>私は生田緑地ビジョン策定の時に市民委員として参加をしました。</p> <p>その時に、涌井さんがイメージされ、真剣に語られた受け皿(協働のプラットフォーム)とは程遠い受け皿を、再構築する能力が行政にはあるのかな?とと思っています。</p> <p>再構築できない、<b>涌井さんの語られた受け皿を作れないのならばマネジメント会議は不要</b>と思います。</p>
	<p><b>「生田緑地における改修・整備事業の調整方法の手引き」</b>(平成27年4月21日作成)は、市民の意見が反映できる仕組みを作ったという意味でも素晴らしいことだと思います。</p> <p>必要に応じて今後もこの手引をさらに発展させ、尊重して、<b>より良い生田緑地にしていけたらと思っています</b>。</p>
	<p>生田緑地マネジメント会議の一丁目一番地は「生田緑地大好き・生田緑地は大切」だと思っています。</p> <p>将来的にはこのフレーズのもと、更なる一体感が持てるような取り組みを目指すことが必要だと思います。</p> <p>現在、個別の活動団体が自主的・自立的・自覚的に活動していることが、活動の積極性を引き出していると思います。</p> <p>今後も積極的な自主的活動を妨げずに、お互いに認め合いながらももっとお互いに協力し合う関係作りが求められていると思います。</p>
	<p><b>お互いに助けて欲しいことを出し合って、お互いに知恵を絞って、お互いに調整をして、生田緑地全体の共通する課題に取り組むことができればより良い生田緑地作りになる</b>のではないのでしょうか。</p>
	<p>そう言った取り組みこそが協働のプラットフォームの具現化だと思います。</p> <p><b>その為に必要なことは何か、検討する必要がある</b>と考えます。</p> <p>将来的にはそれらの積み重ねの上に、例えばマネジメント会議主催の生田緑地を広報する自主的・自立的・自覚的参加のイベント等が開催できるようになれば素晴らしいと思っています。</p>
	<p><b>このようなプロジェクトを円滑に進めるためには、積極的かつ迅速な情報共有が欠かせません。</b></p>
	<p>6月30日のマネジメント会議「第1回 運営会議」で配布された資料には、前述した『3頁目の参考資料』が添付されておらず、当該資料の存在を知ったのは、6月30日に受信したリマインドメールを読んだ時です。</p>
	<p>「用紙節約のために3頁目は印刷せず、会議の際にスライドで投影した」という事情は後日知りました。</p> <p>要するに6月30日になって初めて、参考資料に『ばら苑』関連の記述があることに気付きました。すぐに「できる限り多くの人に話を聞こう。その上で回答しよう」と動き出したものの、回答の締切が翌7月1日だったため、到底間に合いません。</p>
	<p>そこで担当の方に連絡を入れ、ばら苑に関する事だけは7月8日まで回答期日を延ばして頂きました。柔軟な対応に感謝しています。</p>
<p>それでも皆さんの声を集めるのは時間的に厳しく、最終的にはボランティア会の役員数人への確認にとどまりました。この点は、非常に残念です。もっともっとたくさんの方の意見に触れ、より実態に即した要望を提出したかったです。</p>	
<p>会議の場でスライドに気付けなかったことは、私共の注意不足でもあります。</p> <p>また会宛てには事前に会議資料をメールで頂いていたのですが、複数ある資料すべてに事前に目を通すのも難しいものがあります。</p>	
<p>それらの点を反省しつつも、(図々しいとは存じますが)『みどりの事業調整課担当者様』や『マネジメント会議事務局様』からの、より能動的でわかりやすい情報発信にも期待しています。</p> <p><b>あらゆる場面で、今まで以上に円滑なコミュニケーションを取れる環境が実現できたら、とても嬉しい</b>です。</p>	

種別	要望
防災	<p>また、<b>放置され丘陵地</b>では、台風や災害の度に恐怖を感じておられる近隣住民がおられる、きちんと<b>防災対応をしていきたい。</b></p> <p><b>危機管理・防災への方針・具体的な対応策が必要</b></p> <p>*この10年間での生田緑地は、台風や大風、豪雨などの被害ががけ崩れなどの形で相次いでいます。ナラ枯れも大規模に発生し、上記原因と合わせて、大木の倒木も大きな課題だと思います。</p> <p>*本格的な防災の方針が必要です。</p> <p><b>マネジメント会議で防災の話を提案すると、この会議では扱いませんと担当者が回答する、金のかかることはお断りというのは納得できません。</b></p>
情報環境の整備	<p><b>IT機器などのさらなる充実・活用等</b>も。どこに何が必要かの検討。例えばZOOM会議環境の充実等。</p>
情報発信	<p><b>生田緑地における活動についての情報発信については、</b>ゲートウェイである<b>生田緑地公式ホームページから発信できるようにしてほしい</b>と思います。</p> <p>協働のプラットフォームの会員であるということは、それが可能であると、市民感覚では思うので、それが認められていないということは、全く信頼関係が無いと思われてしまいます。</p> <p>また、<b>「まちと自然、人と人をつなげる」</b>ためには、ゲートウェイからの生田緑地としての情報発信は<b>非常に重要</b>だと思います。</p>
植栽	<p><b>生田緑地を魅力的にする具体的な方法を考える必要がある、</b></p> <p>例 老木となって枯れてしまいそうな桜（ソメイヨシノ）の再生の取り組み ツツジ山の再生計画（ツツジ山と書かれた場所にサツキが植栽され、つつじとは花の時期が異り来園者に失望感を与える） 中央広場にも もっと木を植えて良いのでは？（日影を探している人がすごく多い）</p>
イベント	<p>これからも、<b>生田緑地の歴史や文化を知ったり、学べるイベントや勉強会の開催</b>があるといいです。</p>
観光	<p>手入れされない緑地では、観光資源にもなりません、<b>特に外国の方をお連れできるような緑地</b>をしていきたい。</p> <p>・<b>観光地としての位置づけの強化が必要</b>だと思います。具体的には<b>向ヶ丘遊園駅に観光案内所が必要</b>です。川崎市最大ともいえる観光地である<b>生田緑地最寄り駅に観光案内所が無いのは不思議な事</b>。小田急等とも協力をしてぜひとも作って欲しいです。</p>